

冬休みには

学校長 狩野賢司

今日はクリスマス、今年もあと1週間となりました。あっという間の1年間だったというのが私の実感です。皆様にとって、そして子どもたちにとって、この1年が実り多い年であったことを願っております。

二学期も本日で終業式を迎えました。二学期は、運動会やきくまつり、全校遠足など、学校のすべての児童で行う大きな行事の多い学期でした。どの行事においても、子どもたちは力を振り絞って取り組んでいました。そして、生活団や学年で協力し合い、支え合う姿が印象的でした。特に、きくまつりで菊の子汁をつくる際、野菜を切ったり、火を起こしたりするとき、上級生が下級生たちをきめ細かく面倒を見ていた姿や、全校遠足で疲れてしまった下級生のナップザックをいくつも持って山頂に登ってきた上級生、そして頑張って登ってきて山頂で歓声をあげていた低学年の子どもたちの姿を思い出します。このような活動によって、学年を越えたつながりが深まり、年上の子が年下の子を支え導き、年下の子がそれに応えるという連携や感性が子どもたちにしっかりと根付いていくというのが、大泉小学校の特徴だと思えます。

冬休みには大晦日やお正月があります。毎年のことではありますが、お子様と共にあらためて日本の文化を見つめ直す良い機会でもあるのではないかと思います。例えば、ご存じの通り、お節料理の一品一品にはそれぞれ意味や願いが込められています。黒豆は、元気に、マメに働けることを、田作は五穀豊穡、数の子は子孫繁栄、蓮根は将来を見通せるように、など、それぞれの意味を知ることによって、昔から日本人がお正月に何を願ってきたのかを知ることができるでしょう。本校は「国際」や「グローバル社会」をキーワードに研究に取り組んでいます。そして、グローバル社会で生きていくにあたっては、自分と他との違いを知り、認め合うことが重要だと考えています。そのためには、まず自分の立脚点、日本の文化を深く知ることが大事になります。テレビやインターネットで情報を得やすい今日ではありますが、日々の生活の中で実感を伴って得た知識に勝るものはありません。充実した冬休みを過ごすことで、子どもたちがさらに自己を深めてほしいと思います。

この1年、学校の運営にご理解とご協力をいただきましたこと、深く感謝いたします。来る年が皆様、お子様にとってより良い年となりますよう、心より願っております。